

# CREATE KINKI **クリエイト きんき**

〔テーマ〕まちを元気にする

## 都市再開発

**JCCA** Japan Civil Engineering Consultants Association  
社団法人 建設コンサルタンツ協会 近畿支部

**クリエイト きんき** 〔第18号〕

〒540-0021  
大阪市中央区大手通1-4-10(大手前フタバビル5F)  
TEL. 06(6945)5891 FAX. 06(6945)5892  
<http://www.kk.jcca.or.jp>

発行日：2010年1月26日

ご意見、お問い合わせは、[mail@kk.jcca.or.jp](mailto:mail@kk.jcca.or.jp) まで



ランドマーク

滞観  
在光  
地型



探られる島

CO<sub>2</sub>削減  
リサイクル





CONTENTS

# クワイエット きんき

第18号

## テーマ まちを元気にする

特集

### 総説 ① まちを元気にする

- ④ 【大阪北エリア】都市の再生 - 大阪駅周辺のまちづくり
- ⑥ 【阿倍野】大阪南の中核ターミナルは“a”な歩道橋でスタートをきる!
- ⑧ 【今井町】歴史的町並み「今井町」を後世に残す
- ⑪ 【家島】「探られる島」いえしま
- ⑭ 【丹波篠山】大書院を仰ぎ見る城下町に「えこりん」で風になる

文学や映画にみる土木

- ⑯ 文学の中の土木「その街の今は」
- ⑰ 映画の中の土木「フラガール」

シリーズ「土木遺産」

第11回 ⑱ 旧堺燈台

その他

- ⑳ 支部会員のみなさまへ
- ㉑ 会員名簿



# まちを元気にする

元気なまちとは、どんなまちでしょうか。みなさんは、どう思いますか。

「活性化」「地域おこし」「活力再生」「振興」など、

まちの元気を意味する言葉が、ずいぶん前から聞かれます。

言い方はそれぞれ異なりますが、「地域の資産・資源を活用し、地域に賑わいを取り戻す」という意味が含まれます。

もう少し具体的には、人が集まる題材を整備・発掘し、PRして知名度を上げ、

来訪者が増えることで人やお金が活発に動き、

仕事が生まれ人口が増え、地域かにきわう姿が目標かもしれません。

今回の「クワイエットきんき」では、近畿のあちこちで、さまざまな主体や手法により行われている、

まちを元気にする取り組みを紹介します。





## まちを元気にするために

現在行われている、まちを元気にする取り組みには、民間主体の取り組みもあれば、行政主体の取り組みもあります。また、財政的に大きな投資をする取り組みもあれば、お金をあまりかけない取り組みもあります。

たとえば...

駅前の再開発により、新たなまちの顔を造る。

まちの歴史文化遺産を活用し、

イベントなどのソフト施策とあわせてPRする。

使わなくなった施設を、用途変更し

活用することで企業を誘致する。

など様々です。

海外では音楽(文化・芸術)を題材に、賑わい再生に成功している例もあります。しかし、いまだに「活性化」「地域おこし」「活力再生」「振興」という言葉をよく聞くのは、本当の元気になるまちが多いからかもしれません。

これまで、まちを元気にする取り組みは、さながら好景気時代の延長として商業的で、集客や話題提供のための施設など、物づくりによる取り組みが主体であったことは否めません。お金をかけて物や話題をつくり、人を集めてお金を地域に還元することをめざした取り組みでした。

その結果、集客を増やすことに躍起になり、十分な予測も行わず施設を整備し無駄な投資に終わったことや、持続性のない一過性のイベントに終わったことも少なくありません。

また、地域の特性を踏まえず他都市の成功例をそのまま真似して失敗したこともあります。

それどころか、施設整備の代償として地域の豊かな自然やコミュニティが失われ、負の遺産だけが残る、そんな取り返しのつかない結果も見られます。

景気が低迷し、財政状況が厳しく施設整備に頼れない昨今、元気を取り戻す方法を見出せず、途方にくれているまちが多い気がします。

## 真の元気をめざして

本当に元気なまちとは、どんなまちでしょうか。人にととえて考えてみましょう。

元気な人とは...。健康診断で問題ない人・裕福な人・仕事が忙しい人・よく食べる人・よく遊ぶ人・よくしゃべる人、筋力のある人、運動神経がよい人、スタイルの良い人...。これらは要因のひとつですが適切ではありません。

しいて言えば「健全な人」が適切かもしれません。健全とは辞典によると「心身が健康であること」とあります。つまり、肉体的な健康と心の健康をバランスよく持ち合わせていることです。

心の健康とは...。言葉として目標、前向き、いきいき、前進、チャレンジ、誇り、自信、自覚、気配り、思いやり、勇気などが浮かびます。

これらを理想的につなげると、心の健康な人は「人を頼りに人に期待するのではなく、周囲との良好な人間関係を築きつつ、自分の力量や能力を踏まえた上で、自分がどう生き、どう人や社会の役に立つかを前向きに考えられる人」とでも表現できるのでしょうか。

まちを元気にするために、体の健康にあたるものとして話題を提供し人を集め受け入れる施設を整備することも重要です。しかし、同時に心の健康にあたるものとして、地域のかけがえない自然や地域の暮らしが育んできた文化と共に、地域の人々がどのように生活し、訪れた人とどのように接し、訪れた人に何を与えられるかについて長期的なビジョンを持つことも非常に大切です。

つまり、心身共に健康である元気なまちとは、訪れた人が地域の人の「誇り」をもって暮らし続けられるまちを育てよう、「誇りあるまちを、訪れた人々に楽しんでいただく」という思いに触れ、楽しみ、元気になり、再度訪れたいまちです。地域を愛し守りたい人の気持ちと、訪れた人をもてなす施設整備のバランスがうまくとれ、持続できるまちなのです。

## 真の元気は時間をかけて一歩ずつ

人にビタミン剤や薬を与えても、一時的な回復は得ませんが真の元気は得られません。大量に摂取すると副作用もあります。時間はかかりますが、食生活を改善し、ランニングやトレーニングで体を日々鍛えることが真の元気に繋がります。

もちろん鍛えるためには、限界を超えた負荷をかけ続ける必要があり、どれだけの負荷をかけ続けるのか見極めることが非常に重要です。負荷をかけすぎると長続きしないばかりか、ストレスで心の健康も失うこととなります。明確な目標のもと、体にどのような負荷をかけ、どのようにいたわり、どういう状態を目指すのかを、年齢・性別・体力・時間・費用など、個人個人が身の丈にあったプログラムをたて継続することが重要です。

まちも同様に、一時的に物見遊山で地域に多くの人に来て賑わいが生じて、一過性では真の元気に繋がりません。投資が無駄になるばかりか、容量を超えた観光客による環境破壊だけが残ります。来訪者を増やすことも大切ですが、数の増減に一喜一憂せず、まずは地域の容量を自覚した上で、身の丈にあわせゆっくりと容量を増やす姿勢を大切にすべきではないでしょうか。病気を短期間で治療するのではなく、日々体を鍛える感覚が必要でしょう。人と同様、まちそれぞれが、立地特性(都市か地方か)・人口・年齢構成・観光特性・財政状況を踏まえ、「守り残すもの」と「作り変えていくもの」のバランスをはかりつつ「本当に取り戻すものは何か」を、愛着をもって見極めることが大切ではないでしょうか。

今回紹介する「まちを元気にする」取り組みは、「守り残すもの」と「作り変えていくもの」のバランスがそれぞれ異なりますが、持続するまちの発展を願ってのことです。その発展の鍵は「まちを愛し成長を願う地域の人の心」にあるのかも知れません。

< 編集委員 >  
八千代エンジニアリング株式会社 吉田 雅一

# 都市の再生 - 大阪駅周辺のまちづくり

日々見慣れている風景が少しずつ変化していく。時折思い返すと、大きく変わっている。大阪駅周辺を見て感じる事です。大阪駅・梅田駅を利用して20年になります。北側のヨドバシ梅田の場所には、国鉄大阪鉄道管理局の古めかしいビルがあったこと、それが取り壊されて一時ゴルフ練習場があったことが遙か昔のようです。西側の大阪ガーデンシティはハービスなどの高層ビル街となっていますが、以前は貨物ヤード撤去後に広大な更地が広がっていました。JR東西線の北新地駅ができたのは13年前、併せて地下街も拡がりました。JR大阪駅の高架下には商業施設、東の阪急側には観覧車付きビル。思い起こせば随分変わりました。そして、今でも変わりつつあります。

## 大阪の進化の息吹が聞こえてきます!

昨年9月に阪急百貨店梅田本店建て替え工事の第1期棟がオープンしました。JR大阪駅にも橋上駅舎や大屋根が姿を見せ始めました。大阪駅北側では貨物ヤード跡地の先行開発区域に広大な空き地が広がり、知的創造拠点(ナレッジ・キャピタル)の構築を待っています。その残り西側部分は未だ貨物ヤードとして使用中ですが、吹田、百済(大阪市東住吉区)に、その機能を移転すべく、工事が進められています。これらの他にも、中央郵便局跡地の開発、富国生命ビルの建て替えなど、プロジェクトが目白押しです。大阪、近畿を代表するまち、顔とも言える大阪駅周辺は、数年後にはその姿を大きく変えます。

絶えず変わりつつある大阪駅周辺。まちを歩くと変化の鼓動を感じます。しかし、特にここ数年の間に大型プロジェクトが集中しているようです。

## 今世紀の都市開発は民間活力をいかに引き出すか!?

なぜなのか、誰が仕掛けているのか、疑問でした。調べてみると、共通のキーワードは「都市再生特別地区」でした。都市の再生です。国家戦略とも言える大きな話でした。

都市の役割はますます重要になっています。その一方で、少子高齢化や情報化、国際化への対応や、交通や公園等のインフラ整備に数々の課題

を抱えています。このため、都市の魅力と国際競争力を高めることを目的に、内閣に都市再生本部が設置され、平成14年6月には「都市再生特別措置法」が施行されました。都市再生の柱の一つに、民間都市開発投資の促進があります。国や地方公共団体の財政が厳しい中、規制緩和や支援を行うことで、民間資金を都市再生に活用しようという目論見です。

## 行政の舵取りが明日の都市を切り開く

この法律に基づいて、全国に65箇所の都市再生緊急整備地域が定められました。近畿では20地域が指定され、最大は485haの「大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域」です。この区

域内では、容積率の緩和等の特例措置が認められる「都市再生特別地域」の設置や、民間都市開発を金融や税制面で支援する「民間都市再生事業計画の認定」が行なわれます。例えば阪急百貨店の建て替えを実施する角田町地区では、容積率が1,000%から1,800%までに緩和されています。民間都市再生事業計画は、現在大阪ターミナルビル(株)が「大阪駅改良・新北ビル開発・アクティ大阪増築事業」で認定を取得しています。この様に、民間事業者に対するインセンティブを付与することで、都市再生の速やかな実現を図っているのです。大阪駅周辺で現在進められている大規模プロジェクトはほとんどがこの枠組みを利用しています。



大阪駅北地区先行開発区域完成予想図  
イメージ映像は、2008年2月時点のもので、実際とは異なる場合がありますので、ご了承下さい。



## 関西のポテンシャルを活かしての知的事業創造拠点づくり

大阪駅付近での最大のプロジェクトは、もちろん大阪駅北地区(貨物ヤード跡地)です。この北地区全体を対象としたまちづくりコンセプトの国際コンペが平成15年に実施されました。その結果を踏まえて、大阪市から「大阪駅北地区全体構想」、引き続き「大阪駅北地区まちづくり基本計画」が発表されました。まちづくりの5つの柱を定め、これに基づく土地利用や交通ネットワーク、都市空間形成を提示しています。現在、東側区域(7ha)が先行して開発されています。大阪駅側からA・B・Cブロックに区分され、Aブロックには北口駅前広場を配置した賑わい・交流の拠点となる「ふれあいのゾーン」、Bブロックはキーコンセプトである知的創造拠点としての「ナレッジ・キャピタルゾーン」として新産業の創造、未来生活提案のための研究・開発施設の設定、Cブロックはこれらを補完する「よ

そおいのゾーン」としてハイグレードなホテルや住宅等により格調高い街並みが形成される計画です。

## 大梅田地区最後の開発拠点

二期開発エリア(17ha)は、現在事業計画が深度化されています。環境をテーマにしたまちづくり、水と緑のグリーンパーク整備、球技専用スタジアムと様々なアイデアが提案されています。大阪駅周辺、御堂筋、中之島までを含んだ大梅田地区に残された最後の大規模な開発拠点ですから、将来を見据えた開発が求められます。

この区域の開発にあたっては、開発エリアと既存市街地である西側の新梅田シティを分断している東海道支線の地下化が事業成立の要件です。この東海道支線は新大阪駅から梅田貨物ヤードを経由して大阪環状線に接続する路線で、新幹線と連絡し、関西国際空港や和歌山方面への特急列車のルートになっています。しかし、大阪駅付近は通過するだけです。これを地下化し、併せて新駅を設置することで、開発エリア内の結びつき、周辺

との結びつきを強化すると共に、国際軸と直結したまちづくりが可能となるのです。またこの他にも、開発エリア内を南北に縦断する新たな鉄道路線として、地下鉄四つ橋線の阪急十三駅に向けた延伸も検討されています。

## 大阪のDNAを引継いで明日を開く

さまざまなプロジェクトが進む大阪駅周辺で、まちづくりの先輩とも言えるのが、駅前第一ビルから第四ビルに代表される大阪駅前再開発事業です。昭和30年代から20年の歳月をかけて、大阪市が主体となり、防災と土地の高度利用を目的とした再開発事業が実施されました。非常に困難な事業であったそうですが、40年の歳月を経た今となっては、昭和の時代を感じるビル群となっています。この事業と現在大阪駅周辺で行われているプロジェクトとはその目的が異なりますので、一概に比較することは難しいのですが、それでも今回のような民間活力の利用や開発コンセプトへの力の入れ方を考えると、都市のまちづくりの考え方や手法に隔世の感を感じます。

世界に目を向け、独自の新しいものを発信してきた大阪。そんな大阪のDNAを引継いで広く日本へ広げていく新しいコンセプトの「まち」が生まれそうな期待をもって、日々少しずつ姿を変える状況を見守り続けたいと思います。

<編集委員>  
ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社  
山下 茂樹



# 大阪南の中核ターミナルは "a" な歩道橋でスタートをきる!

大阪南の玄関口、阿倍野・天王寺地区は、大きく生まれ変わろうとしています。この阿倍野再開発事業は大阪市のマスタープランである「大阪市総合計画21」のひとつで阿倍野交差点の南西に接する28haの地域を業務商業施設の整備や、高層住宅を中心にした都市機能を整備するものです。そしてこの中核に位置するのが阿倍野歩道橋です。



## 歩道橋に佇めば 阿倍野の鼓動が聞こえます

現在の歩道橋は40年以上前に建設され、交通の要衝としてのハブ機能を果たしてきました。難波や大阪駅のビジネスマン中心の往来ではなく、学生からお年寄りまで多くの人が行きかう日常生活の香りを色濃く感じます。

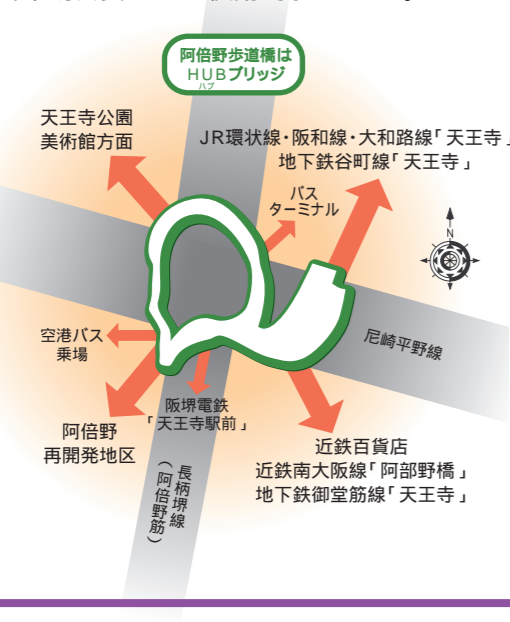
周囲に目をやれば、建設重機が並ぶ金塚地区の広い開発エリアが広がり、近鉄百貨店が高さ300mを越える日本一高いビルへ生まれ変わる工事が進行、北西には美術館に繋がる天王寺公園の豊かな緑が広がります。

電車は地下やターミナルビルに隠れ見えませんが、堺へ伸びる路面電車(阪堺線)にノスタルジーを感じます。



## 交通の要衝としての阿倍野

阿倍野歩道橋は、これらの交通機関を繋ぐ要としての役割を持っています。

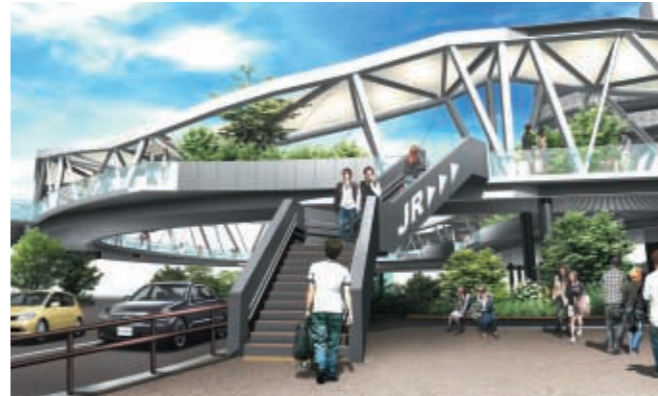


## ランドマークとなる 斬新な歩道橋

阿倍野再開発のポイントのひとつである阿倍野歩道橋は、「デザイン・設計コンペ」で選定が行われ、9点の応募があり、最終的に景観性、構造特性、施工性、コスト削減の考慮を検討、中央復建・昭和設計業務委託特別共同企業体の技術提案が選定されました。

斬新なデザインを支える歩道橋の柱は、数が少なくスッキリとしています。このようなデザインを支えるのは、基礎工事にあり、商店がひしめく巨大な地下街と地下鉄の通る地下に巨大な基礎杭を打ち込む必要があるため、高度な技術力と設計力が必要となるところでしよう。

建築技術と土木技術の融合により、ランドマークとなる斬新な歩道橋の誕生が叶います。



## 空間への想いと建築の手法が盛り込まれた「人道橋」

### 建築と土木の融合

リニューアルされる歩道橋には、トラス構造が採用されており、上弦材を利用して屋根が設けられています。様々な高さを変え、トラスが空間に変化を与え、屋根に採用された建築用建材の膜材が太陽光を透過し、明るい歩道空間を創っています。屋根があることから建築基準法の適用を受け、建築物としてのスペックと土木構造物のスペックを兼ね備えた、まさに建築と土木の技術が融合した珍しい橋梁です。

### みどり溢れる歩道橋

阿倍野区では「阿倍野区未来わがまち会議」なるものが設けられており、区民自らが主体となって、地域の将来像を描き、その夢を実現していくための活動が行われています。その中で「杜のまちあべの」と称し、花とみどりが溢れたまちづくりへの取り組みがあります。この歩道橋においても、植栽帯を設ける計画があり、住民参加型の緑化推進も期待されます。

### 歩道が宙に浮いたイメージ

一般的に歩道橋は、鋼橋の場合、黄緑などの原色系で、夜間でも視覚的に目立つ配色にすることが多いですが、この歩道橋は上部工に白色、下部工に灰色を採用しています。この歩道橋は、道路の上に橋をかけるという考えではなく、あくまで地上にある歩道を宙に浮かせたという設計者の意図を反映しています。ドライバーの目線からは、昼間は白を基調としたモニュメンタルなシルエットで、夜間は屋根全体が柔らかな光を放ち、交差点の認識を新たにします。

土木担当  
坪村健二氏  
中央復建コンサルタンツ株式会社



古いかもしれませんが、ザ・ディランIIにいた大塚まさしの「天王寺想い出通り」が好きなので、最初この話があった時に、「これからの天王寺」と「ションベンくさい天王寺」がどのように結び付けられるのかということが気になっていました。

最初のイメージをパースにそって設計図にしていくなかで、私の不安は期待から確信に変わっております。このaには天王寺が表現されているのでないかと。天王寺の歩道橋ごっつう綺麗になったやん、JRのMIOから見てみたらローマ字のaにみえるらしいで、何でaなん... まあ「あやん」...いかがでしょうか。

建築担当  
久保岳氏  
株式会社昭和設計



## 新しい阿倍野が "a" から始まる

この地は、歴史的には非常に古く、熊野古道の通過点でもありました。現在でも阿倍野王子神社が緑豊かな都会のオアシスとして地域の信仰を集めています。

「鳥瞰すると小文字の"a"に見えませんか? これは阿倍野の新しい街が『ここから始まる』そんな思いを込めての"a"なのです。また、人の流れの量と向きを結んでいくことで導かれた機

能的な形でもあります。」と語る(株)昭和設計の久保氏。

生まれ変わる予感を感じる新名所が誕生を待ち望まれています。

土木技術者として橋梁の設計に従事していますが、阿倍野歩道橋に込められた建築的な感覚には、非常に刺激を受けました。この刺激(建築的センス)を少しでも橋梁の計画や設計に活かし、良い構造物を造っていきたいと思います。

本稿作成にあたり、中央復建コンサルタンツ(株)の坪村様と、(株)昭和設計の久保様には、多大なご協力、ご指導をいただきまして、誠にありがとうございました。

<編集委員>  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
松沢 政和

# 歴史的町並み「今井町」を後世に残す

遷都1300年祭を来年に控え沸立つ奈良。その奈良にあって、かわらず穏やかに時が流れている重要伝統的建造物保存地区 橿原市今井町。一步入り込むと迷路のような路地。さっき通ったお店があれ？ ぐるぐる回り、ようやく辿り着いたお目当てのお店。手作り感満載のお庭で食べるお蕎麦とかやくご飯のランチはまさしく母の味。まちかどのお豆腐屋さんで買い求めた大和あげは、生姜醤油と相性抜群です。そんな今井町でこの秋ちょっとした事件が起きていました。国の「平成21年度 地方元気再生事業」に選定され、滞在型観光メニューを用いた社会実験が行われ全国からモニター募集の応募者が殺到!! てんやわんやの大騒ぎになっていました。

## 平成の時代まで 生き残った「今井町」

今井寺内町は、古くは興福寺の荘園で、中世の環濠集落を母体として発展した町です。

室町時代の後期には、一向宗(浄土真宗)の道場、後の称念寺ができ、その後、文禄検地(1561)頃には現在の六町が成立しています。周囲に三間の堀、土居を巡らし入口には九ヶ所の門を構えた武装宗教都市でした。豊臣の時代には、自治都市として南大和最大の商業都市として発展、江戸時代に栄華を極めました。

東西600m、南北320mの濠をめぐる江戸時代さながらの情緒を残し、伝統的な様式を持つ町家が軒を連ねて建ち、指定建造物も多く残っています。この景観に注目されたのは古く、昭和30年に東京大学により町屋調査が行われたところに遡ります。日本でも有数の歴史的町屋群といえるのです! 平成5年12月8日には、重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。人々が住みつづける生きた文化財の宝庫ともいえるまちです。



環濠跡



## NPO活動を 行政がバックアップ

由緒ある町も、少子高齢化による過疎化という問題に直面していました。古く住み続けるのは、親の代までで子の代になると違う都市へと移り住み、親がなくなると空き家が増えていく... そんな現実と向き合い打開策を見出すため、行政と地元住民が手を取り合い、4年前、NPO法人今井まちなみ再生ネットワークが発足しました。構成メンバーは約70名、うち20名ほどが今井町住民、他は街づくりや建築のプロ、学生さんや支援者の方々などです。皆で知恵を出し合い新しいまちづくりに取り組んでいます。

再生ネットワーク理事長 上田琢也氏は語ります。

自分の生まれ育った今井の町を自分の子供たちの世代にも伝えていきたい、残したいという強い思いからです。町の未来像は、土産物屋さんがたくさん並んで観光客が常にぞろぞろ歩



NPO法人  
今井まちなみ再生ネットワーク  
理事長 上田琢也氏

いているようなどこにもあるような観光地ではなく、今井なりの静かな観光の模索。今井のよさを守りつつ、新しい観光イメージのビジョンを発信し、文化に触れ生活に触れるそんな街です。住宅地なので、住民以外の方があまりソロソロ歩いているのをあまり好まない方も多いのも事実ですが、その中で、街づくりの大切さを伝えていかなければならないと思います...

そんな思いの中で取り組まれているのが、家を売りたい、貸したいと思われる家主さんと、今井に住みたい、町家に住みたいという移住希望者の仲介、まちづくり他の各種講習会の開催、町家の宿泊体験施設の建設など。

## 新しい試み

### 滞在型観光メニューを用いた社会実験(第2回目)

平成21年11月14日(土)

【散策】着物に着替えて今井町内散策(重要文化財の町家を見学)  
【夕食】町家で地元食材を使ったイタリア料理。その後、服部滋樹氏による講演会  
【町家BAR】今井まちなみ交流センターにて古楽アンサンブルアピエによる町家コンサート  
【夜の街】電気灯火会でライトアップ 【町家で宿泊】

平成21年11月15日(日)

【散策】朝市と今井町近隣散策( JR畝傍駅貴賓室、八木札の辻、藤原京)  
【昼食】今井町内の料理屋さんによる「今井町定食」  
【最後に今回の体験アンケートに解答】



今井まちなみ交流センター「華藝(はなびらか)」にてオリエンテーション



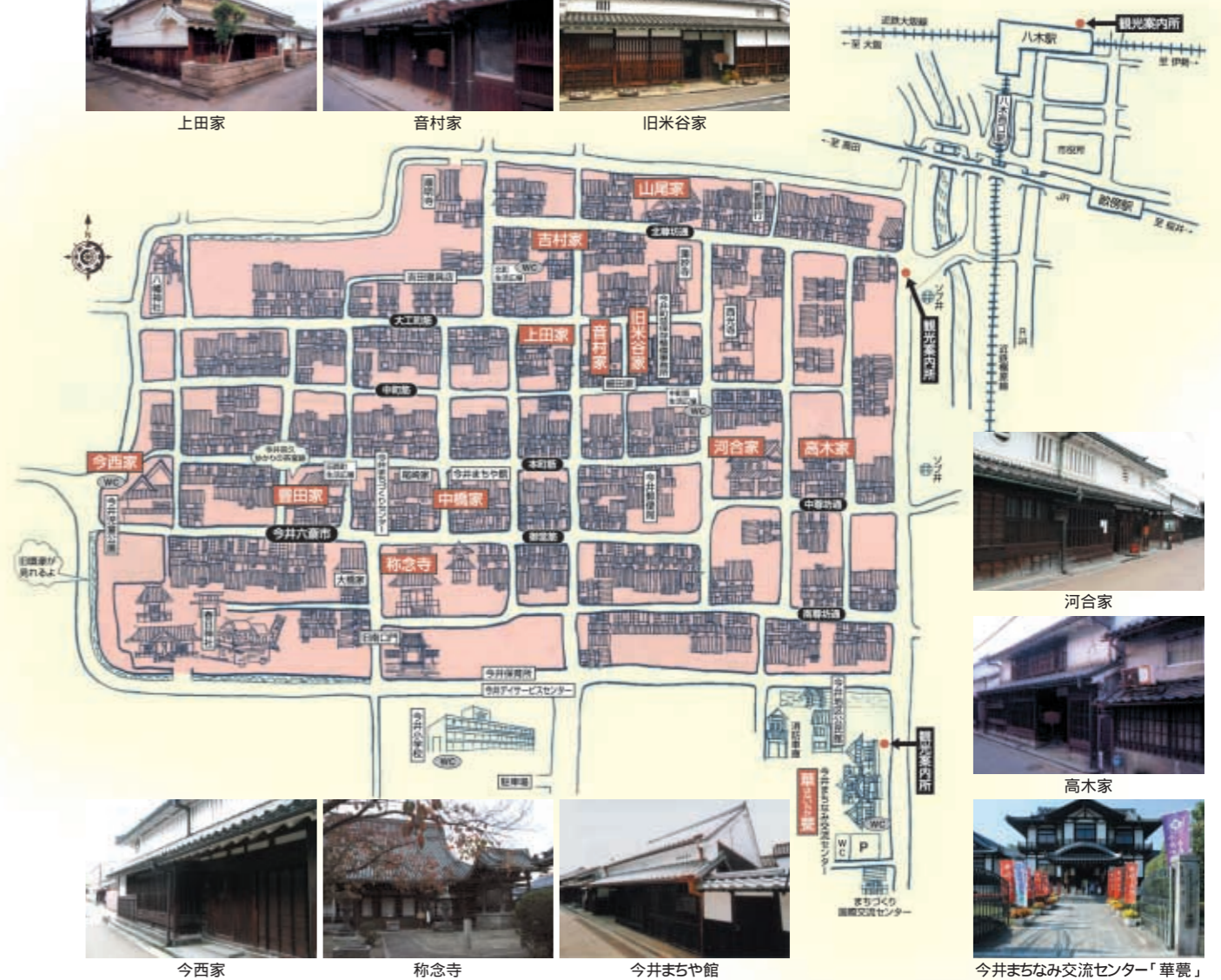
上田家



音村家



旧米谷家



河合家



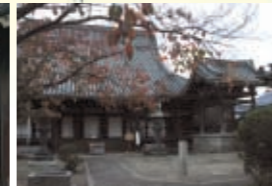
高木家



今井まちなみ交流センター「華藝」



今西家



称念寺



今井まちなみ交流センター



## 江戸時代に タイムスリップしたような...

初日の今井町散策では、重要文化財の高木家、現在も酒屋の店舗として利用中の河合家、実際にご夫婦が生活している音村家などを見学、住人の方が熱心に家の紹介をしてくださり、モニターの皆さんも必死に耳を傾けておられました。家主さんの古いものになりたいという愛着と後世に伝えていきたいという思いを感じられるひと時でした。モニター同行取材という立場を忘れてつつい説明に聞き入り、真ん前を陣取ってしまうこともしばしばでした。そこには、都会の住宅とは桁違いの空間の優雅さがありました。しかし、家庭内のプライバシーがない事や機密性が保たれず冬の隙間風の問題等もあるようです。

また、商家ばかり立ち並んでいたこの辺り一体では、道行く武士を見下ろしてはいけないという理由から、2階には普通の部屋がなく納戸のようなもの入れ的な部屋しかないなど、その時代背景を聞きながら部屋を見渡すのも面白いものでした。また、この今井は財力に物を言わせ、堺と並んで地方自治を認められた数少ない地域です。惣年寄筆頭だった西家の土間は、当時、簡単なお裁きが行われていたそう、小学生ならマット運動と跳び箱が同時にできるほどの広さがあります。

散策後もスタッフの皆さんは、この後の電気灯火会の準備など慌しく働かれました。



電気灯火会でライトアップされたまちなみ

## 妻のお気に入りのまちに 住む喜び(1ターン今井)

NPOスタッフで今年から今井町に移り住むという長谷川重和さんにお話を聞くことができました。

飛鳥・今井はよく観光がてら散歩に来ており、妻のお気に入り散歩コースでした。昔ながらの古い町によそ者が簡単に住めるとは思っていませんでした。ある時、NPO主催で町家を見て回る催しが行われていて、参加してみたいです。参加メンバーは、住みたいと思っている4、50代の夫婦が中心、貸してもらえ、譲ってもらえる前提の町家見学ツアーでした。その中で、廃屋同然の家を見つけ、リフォーム話に夫婦で俄然盛り上がりました。色々な制約の中で改築を進め、ようやく今年2月に完成します。歴史と文化の香りがし、ご近所とのつながり先感じられる。こんな場所を終の棲家として、落ち着いた生活を送ってければ...と笑顔を輝かされていました。



NPO法人  
今井まちなみ再生ネットワーク  
長谷川重和氏

コンサルタントとしては、今回の社会実験の事務局として(株)環境総合テクノスさんが係わっていました。

「社会実験メニューの検討、地元の方々との調整、モニターの募集・選定等々、8月から準備を始め、てんてこ舞いの忙しさ。あっという間に11月の実験当日を迎えました。体験モニターの募集は、大々的な広報をしていないにも関わらず、近畿だけでなく関東や九州からも応募があり、今井町が持つ潜在的な魅力はすごいなと感じました。今後、この社会実験がきっかけとなり、

## 行政はNPOや住民を 側面からサポート

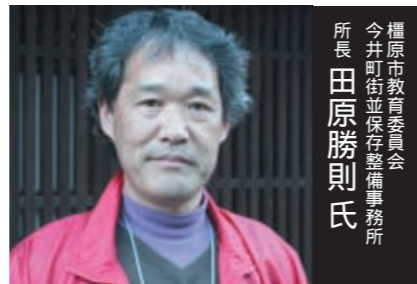
檀原市教育委員会 今井町街並保存整備事務所 田原勝則所長のお話。

「街に入り込んで活動していただき、できれば住んでいただきたい。行政は、直接的な活動は不得手のため、その活動は、NPO主体で活動しそれに対して資金面等で支援できたらと思います。

国の施策で予算を確保できたことから、町家を利用した宿泊施設の建設が可能となりました。そこでNPOとタイアップし、補正予算を組み間接補助で支援しました。

今後、この今井の町家に何日か泊まって、町家を見直していただき、定住促進を計りたい。また、1ターンやUターンの施策促進などでも定住促進を計っていけたらと考えます。

戸建の改修は進んできたのですが、借家長屋は改修が進まないのが現状で、今後はこれらを利用促進するモデルケースを着実に作って行きたいと考えます。」



檀原市教育委員会  
今井町街並保存整備事務所  
所長 田原勝則氏

今井町が持つ魅力をより多くの人に知っていただくとともに、一過性の観光だけではなく、今井町を体験・滞在する観光のスタイルが定着すれば良いと思います。」と語る(株)環境総合テクノス 岩崎氏。

官民一体となって新しいスタイルの観光地を目指す「今井町」。私も奈良県民の一人として、今後の「今井町」を見守っていききたいと思います。

<編集委員>  
中央復建コンサルタンツ株式会社  
林直美

## 4 THE CASE OF 家島 兵庫県姫路市

## 「探られる島」いえしま

兵庫県姫路市家島町は、姫路港の沖合い約18kmに位置している。東西26.7km・南北18.5kmにわたって散在する大小40余りの島々は、瀬戸内海国立公園特有の美しい多島海の景観を織りなしている。平成18年に姫路市と合併し、いえしまは「観光ゾーン」に位置づけられています。その歴史は古く旧石器時代から弥生時代にかけての遺跡が点在します。神武天皇の時代、嵐を避けるため寄港した際に波が静かで「家の中だ」とのことで「家島」の名が付いたと伝えられています。一般には漁業と採石の島として知られています。

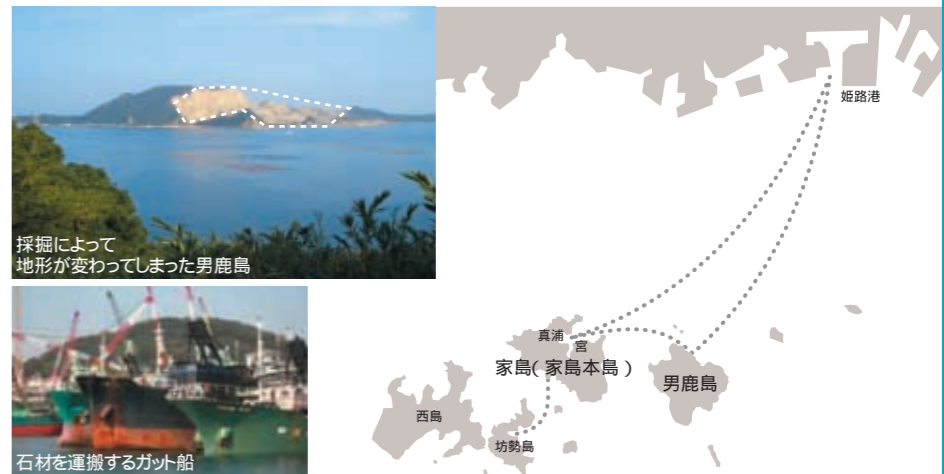
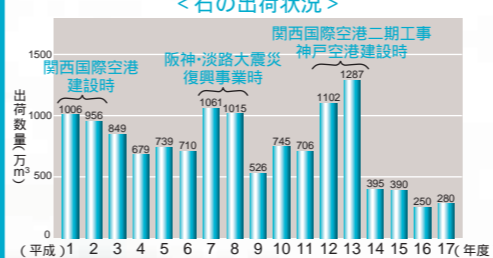


### 石材業・海運業の今

いえしまは石材産業で日本の礎を担ってきました。その歴史は古く、大阪城の石垣に使われていました。近年では六甲アイランドの埋め立てや平成7年に起きた阪神・淡路大震災の復興事業に、また関西空港、神戸空港、名古屋空港などの埋め立て工事に、島を削り取った石材は使われました。

そんないえしまの基幹産業も公共事業の縮減など、時代の変化に伴い減少、最盛期の五分の一程度になりました。かつて港を覆いつくし、停泊場所を争うように帰港したガット船も、今では湾を見渡しても数えられる程に寂しくなりました。

一方、街に目をやると、石貼りの役場や近代的な病院など離島の施設とは思えない立派な建物が、日本の経済成長を支えたご褒美のようにそびえています。



採掘によって地形が変わってしまった男鹿島

石材を運搬するガット船

### 「いえしま」にダーツ命中! 縁のはじまり

いえしまの人々は仕事を内地に求め、どんどん流出、漁獲高では県下で一番を誇る水産業も、油の高騰と流通の脆弱さ故、苦戦を強いられています。一見裕福な島のように見えますが、内情は決して明るい未来がみえるものではありませんでした。

そんな折り返し日、「当時大学で卒業研究のテーマとするフィールド選定をしていました。その時、日本地図に向かって投げたダーツが「家島」に命中したのです!」と語る「studio-L」の西上ありさ氏。それ以来西上氏は8年にわたっ

ていえしまに通い詰め、いえしま再生に取り組むことになりました。

島の世話人である漁業組合長、家島石材採掘協同組合長などの島の有力者との話し合いの場で、西上氏は島の再生は「錢を使っただけの力任せの再生はこれからの時代では通用しない」と訴えました。都会からやってきた若い女学生の言葉に激怒して机をひっくり返し、場をたった島民もいたようです。しかしその時から疑心暗鬼ながらも「島おこし」の歯車は廻り始めました。



## 島には脈々と息づく 助け合いの精神あり

フェリーも通わぬ離島であり、宿泊施設も無い島に観光で島おこしをするとなれば、従来は大きな箱物を作って観光客に宿泊してもらい、地元の雇用を創出するものでした。西上さんがいえしまを幾度と無く訪れ気づかされた事は、家島の人々の助け合いと、人情熱い気質だったのです。「友達の旦那が亡くなると皆で悔み涙する」...私たちが都会に住んでいる者には信じがたいことだったと西上氏は語ります。何をやるにも皆が手弁当でぞろぞろ集まってきます。何か事を起こそうとすると次から次へと協力者が現れます。

そして「NPO いえしま」が誕生しました。「一人でもみんなのために、みんな一人のために」島民が自然体で行っている人情のお付き合いの延長線上にありました。「日常の活動は高齢者の生活支援や地域住民の交流活性化ですが、まちおこし推進の活動も皆が無報酬で集まってきます」と語る理事長河部恵子氏。

今では遠巻きに見ていた男連中もすっかり協力的になり、NPO活動は島でしっかり根付き、無くてはならない存在になりつつあります。

## 島の魅力を探れ!探れ!

2005年から2009年の5年間、「探られる島」プロジェクトとして、いえしまでの2泊3日のフィールドワークと大阪での4日の会議、計7日間のワークショップの企画が毎年実施されました。

全国から集まったメンバーは建築・土木・都市計画・経営・写真など様々な専門分野の学生や社会人です。

いえしまの魅力は何処にあるのか、島中を歩き回って探りました。

採石の島「男鹿島」では、街の工事現場では目にする事の出来ない巨大ダンプがありました。石の船積みには背丈を越えるほどの大きな「鉄の爪」! 何をとつてもスケールの大きさを感じます。産業の現場にはワイルド

な景色が広がっていました。街を歩けば漁師さんの生活ぶりを垣間見ることができます。屋外の台所、冷蔵庫なんかも参加者の驚きのひとつでした。

その時感じたことは「今ある生活や仕事場の風景」や、そこでの生活を営む「島の人たちとのコミュニケーション」の中に新鮮な驚きや楽しさがあったことです。

これはいえしまのもつ観光のポテンシャルのほんの一部かも知れませんが、しかし確実に参加者の共感を得たことは確かです。

参加者の好奇心は島の産業と生活の中にあり、冒険心をくすぐる「島の魅力」なのだ気づいたプロジェクトでした。



いざ!! いえしまへ上陸



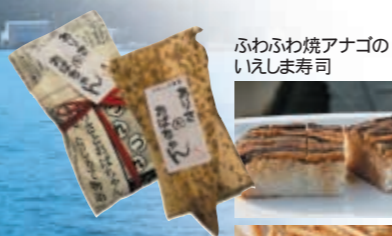
NPO法人 いえしま 理事長 河部恵子氏  
株式会社 studio-L 「探られる島」プロジェクト 西上ありさ氏



「今後の家島」について夜通し話し合う



「探られる島」プロジェクトの成果をまとめた冊子



ふわふわ焼アナゴのいえしま寿司



アナゴの骨せんべい



新商品開発に向けて作戦会議のNPO いえしまの御婦人方



## 瀬戸内の幸は 島PRの看板になる

海産物の加工による物産品の開発も行われています。

「獲れすぎたり、流通の規格外となってしまう魚は沖で捨ててくる」との話を島の漁業関係者から聞き、こんな勿体無い話は無い、なんとかならないか、捨てられてしまう魚を美味しく加工して商品にすることができるのではないかと。

その結果、試行錯誤の未 completion させたズキの味噌漬けを皮切りに、海苔の佃煮、アナゴの骨せんべい、押し寿司等々、様々な物産品が商品化されました。

また、これらの物産品を単に商品化するのみではなく、「地域の物産品の新たな供給のあり方」として現在大阪の千里ニュータウンと連携した物産品供給システムが検討されています。この試みは国土交通省の平成21年度「島づくり地方再生推進調査」として選定されました。

## 島の魅力を知れば あなたも「PRマン」

さらには空き家を活かしたゲストハウスプロジェクトも行われています。

「以前は採石によって裕福だったため、純和風な豪邸が多く残る。しかし、最近島外に移住する人が増え、空き家が問題になっていたんです」と西上氏。

空き家をゲストハウスとして利用することで、新たな漁村滞在型観光を目指しているのです。

このプロジェクトは内閣官房地域活性化統合事務局の平成21年度「地方の元気再生事業」として選定されています。

また、このプロジェクトの一環として、いえしまの新たな観光プランを企画立案し、地域住民との連携の中で観光プランを運営するとともに、実際に訪れた観光客のおもてなしも担う総合的な観光コーディネーターとして「いえしまコンシェルジュ」が養成されています。

## おわりに

このように、現在様々な取り組みがいえしまでは行われ、新たないえしまが誕生しつつあります。

今回の取材は、「ゲストハウスプロジェクト」に関する活動の真っ最中という大変忙しい中行わせて頂きました。

河部理事長と西上氏を中心にお話を伺いましたが、関係者の方々がワイワイガヤガヤと大変な活気を感じながらの取材でした。

その活気の中から、関係者の皆様がいえしま再生に対する意気込みと同時に、強い絆を感じる事が出来ました。女性陣のパワー、熱い人情に支えられ、いえしま再生は益々加速しそうです。

お忙しい中、取材に快く応じていただいた河部理事長、西上さん、NPOの皆様には、ほんとうにありがとうございました。

<編集委員>  
東洋技研コンサルタント株式会社  
宮下 典嗣



いえしまの民家での豪快なおもてなしの数々!!



# 大書院を仰ぎ見る城下町に 「えこりん」で風になる



丹波篠山築城400年祭  
マスコットキャラクター  
「えこりん」

大阪から乗車したJR宝塚線の車窓の景色は、「三田駅」を過ぎるとどんどんと変化し、山がグンと近づき、約1時間で「篠山口駅」に到着。少し肌寒いものの晩秋のサイクリング日和です。築城400年を迎えた城下町は、歴史情緒と文化が漂い、田園風景が広がるのどかな時間が流れています。農業と商業と歴史が程よくマッチした閑静でコンパクトな街に、年間300万人の観光客がやってきます。そして観光地としての更なるバージョンアップを模索しつつ「えこりんプロジェクト」が展開されていました。

## 「残すもの」

### 古い町並み景観は街の宝物

丹波篠山には、永い歴史を刻んで現在に残され息づく建築物が多くあります。

江戸時代の武家屋敷跡が城跡の周辺に点在し、「残すべき建築物」として積極的に保存されています。

また、大正12年に建てられた「役場庁舎」は現在は無料休憩所や観光案内所として、明治24年に建てられた「篠山地方裁判所」は美術館として現役で活躍しています。

平成12年には、春は桜の名所として知られる城跡に入母屋造こけら葺きの大書院が復元されました。建物は歴史資料を備えた史料室になり「篠山城物語」を放映するシアター室が併設されています。歴史は万人の財産、街の宝物として、原風景を「残す心」は街の人々にすっかり定着しています。

## 「切り開くもの」

### 丹波篠山スタイルを世界へ

昨年4月から繰り広げられた「丹波篠山築城四〇〇年祭」は、行政、市民、団体が一体となって60を超えるイベントが実施され、全国に篠山の文化力を発信しました。PR手法はエージェントも顔負け、テレビや雑誌を駆使し幅広い年齢層の来訪者が訪れたようです。この祭りを契機に、丹波篠山の歴史と文化を原点に、これから100年を見据えたまちづくりの取り組みがスタートしました。

黒豆・丹波栗・猪肉に丹波牛といった地場ブランド産品を看板に、丹波篠山の魅力のアピールが続けられています。役場職員自らがHPを運営し、今では2000ページにも及んでいます。

広くアジアに目を向け、街頭の観光案内サインや観光パンフレットは4ヶ国語での表記を進めているそうです。さらに地域で「おもてなしフォーラム」を開催し、ホスピタリティにも磨きが掛かっています。

## 「えこりんプロジェクト」で 低炭素社会に向けた 観光地を模索

当該地への観光や買い物目的の来訪者の移動手段は、大半がクルマのようです。

このような状況のなか、低炭素社会をキーワードに自転車(レンタサイクル)への転換・公共交通の利用促進を図ることにより、中心市街地へのクルマの流入、地区内での移動を抑制するとともに、地域のエネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量の削減の実現と、地域エコポイントなどの連携による地域経済の活性化を図るための社会実験が行われていました。



ソーラー発電パネルを備えた  
サイクルポート大手前展示館

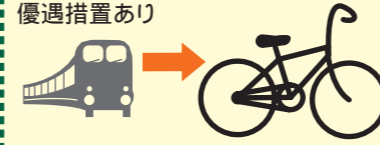
この社会実験は経済産業省における「低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」であり、管理法人である中央復建コンサルタンツ(株)をはじめ計7つの法人と大学が中心となって参画し、篠山市や観光協会、商工会、NPO、兵庫県、大学及び企業等が協力機関として参加しました。

## 丹波篠山えこりんプロジェクト

### エコスタイル 1

#### 駅から自転車で街観光へGo!

交通ICカードを利用して篠山に  
来るとレンタサイクル利用料金の  
優遇措置あり



ここに注目

#### 電動アシスト自転車は 太陽で走る!?

大手前展示館の屋根にはソーラー発電パネルが設置され、太陽エネルギーで充電されたバッテリーで自転車をアシストします。このバッテリーの充電と交換サービスを提供するサイクルポートが、駅と城下町地区に設置されました。



### エコスタイル 2

#### えきバスびじょん。で バスにスイスイ!

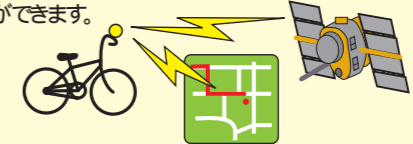
駅や携帯、インターネットで  
バス運行情報やイベント情報入手



ここに注目

#### ハンディーGPSで 観光施設を案内します!

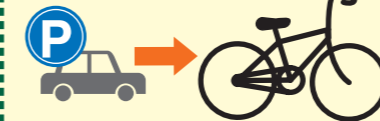
道案内、施設情報の表示など、自転車利用の観光に便利です。皆さんの移動経路・観光スポットでの滞留時間などのGPSに残された記録を自転車道計画や地域活性化などに繋げて行きます。ホームページでの日削減できたCO<sub>2</sub>や消費カロリーを確認することができます。



### エコスタイル 3

#### クルマを止めて 自転車で街観光へGo!

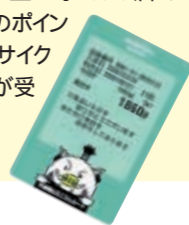
市街地周辺のパーキングで  
レンタサイクルに乗り換えて



ここに注目

#### 「地域エコポイントカード」は 地域商店ぐるみで!

「ポイントカード」は観光客と地域全体での低炭素社会への取り組みのパスポートのようなものです。観光施設や立ち寄りのお店でポイントがもらえます! そのポイントで駐車場料金やレンタサイクル利用料金の優遇措置が受けられます。



## おわりに...

自転車街を走ると見えてくるものは、元気なお百姓さんの笑顔、お店の接客の心、建築中の立派な病院などなど。

丹波篠山では「残すもの」「取り戻すもの」「切り開くもの」の三つのバランスが調和したまちづくりが展開されているように思えます。まちづくりが上手くいっていると評価されているのも事実でしょう。

今回の社会実験は、「低炭素社会をめざす!」という全国共通のテーマが、観光地と観光客を「繋ぐ」試みのように感じました。観光地としてのバージョ

ンアップと、篠山の魅力を発信しリピーターを獲得するノウハウを垣間見ることができました。

社会実験は終了しましたが、レンタサイクル利用者や地域のお店からも、レンタサイクルの事業化を期待する声が届いています。また、私たち建設コンサルタントは今後、低炭素社会に向けてどのように係っていかれるか、またこのような事業に関するコーディネートなども必要となってくると思います。

<編集委員>  
株式会社ニュージェック 片山 浩一

# 建設技術展 2009近畿 開催される

日時 平成21年12月2・3日  
場所 マイドームおおさか  
テーマ 「ええもん(技術)使こて  
ええもん創る!!」  
出展者数 133  
ブース数 157  
来場者数 延べ13,548人



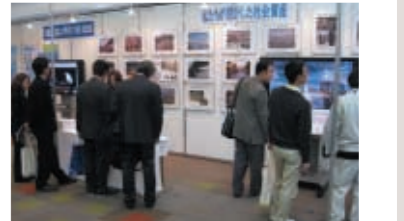
橋梁模型製作コンテストの様子

企業や団体・行政・学校などが参加し、環境や安全・安心など、様々な新技術や新工法の紹介が行われました。また、新都市社会技術融合創造研究会の座談会「低炭素社会に向けて:社会インフラの役割と技術開発のあり方」や快適都市実現委員会「快適都市フォーラム」、特別講演として関西大学理事・教授の河田恵昭氏による「防災・減災に専門的知識をどのように生かすか」、特別授業として神戸大学非常勤講師の田中輝彦氏による「土を止める魔法の壁」が行われ、多くの方が熱心に耳を傾けておられました。

時代を反映してか、特別共催の土木学会による「学生のためのキャリア支援」では、今後の建設業界の展望に学生の注目が集まり、質問も多く寄せられていました。

毎年人気の橋梁模型製作コンテストには、企業・学生43チームが参加。企業部門では、主催者の思惑に反し、荷重を昨年よりも5kg重くしたにもかかわらず、全企業が試験をみごとに合格しました。

当協会のブースでは、前年にひきつづき、会員企業の活動概要と手がけてきた様々な社会資本をパネルと映像により紹介。訪れた方は、クイズで紹介する「建設コンサルタンツ」の業務の多さに驚きのようでした。



建設コンサルタンツ協会近畿支部のブース

# 「その街の今は」

著者：柴崎 友香

発行所：新潮文庫



梅田駅のドーム天井と飾り照明

私は文学と言われる小説が苦手である。胸を張って言えることではないが、苦手である。想像力が貧困なせいなのか、読んでいても頭の中にイメージが湧かず、著者が何を言いたいのか良く判らない。読み進めると共に睡魔というとてもつらく強大な力が襲ってくる。

そんな私が今回文学作品を読んでみたのは、決してこの著作が「2006年度芸術選奨文部科学大臣新人賞」「織田作之助賞大賞受賞」「咲くやこの花賞」といったタイトルを受賞したからではなく、今回の『クリエイトきんき18号』のテーマである“まち”にちなんだ小説を探していて遭遇したからである。なんととも安易な出会いであったが、無事睡魔に襲われることなく読み終えることができた。

大阪市内のカフェでアルバイトをしている女性が主人公。彼女は、大阪の昔の街などの古い写真を集めるのが趣味で、写真を眺めては、その当時のことに思いを馳せる。過去と現在の違いに複雑な思いを抱く。そんな彼女の何げない日常を描いた心温まる物語である。

物語は、彼女の勤め先である「本町と堺筋本町と心齋橋のどの駅からも中途半端な距離にある場所」(大阪に詳しい方なら大体の位置を想像できると思う)を中心に描かれている。私の行動範囲ともある程度重なり、彼女が行った場所や通った道をリアルに想像することができた。

自分が知っている場所を小説の中の主人公が動き回る。そんなことにちょっとした喜びを感じる。

こんなフレーズがある。

「大阪の街は基盤の目状になっているから、規則正しく交差する道が現れる。

東西方向が“通り”、南北方向が“筋”と名前のつくことが多い…」この“通り”と“筋”の話は、私が大阪に来て数年後に知った。妙に感動した記憶がある。

では、建設コンサルタントに従事する者として感動した場面を紹介する。

登場人物の台詞からの抜粋。『御堂筋線のホームかって、あんなドーム天井に飾り照明なんか東京外口にはないで。』文中の会話の一部分だが、「昔の大阪は芸術とか文化で発展している街だった。それが今は目先の利益で…」と嘆いている場面での一言だ。

地下鉄御堂筋線のドーム天井、飾り照明は私も以前から素晴らしいものだと思っていた。現代の地下鉄は、少しでも建設費を安くするために、面白味のない駅、遊び心のない駅になっているが、昭和初期に開業した梅田～天王寺間の御堂筋線には、当時建設に携わった人々の魂というか、熱い思いが感じられる。

また、主人公が「四ツ橋の交差点は、長堀川と西横堀川が交差するところで、四つの橋があった。堀を埋め立てたとき適当に壊して一緒に埋めてしまった橋の石が、地下鉄を通す工事のときに邪魔になって苦労したらしい」と非常にマニアックな描写がある。地下鉄の設計に係わることが多い私には、こんなフレーズが嬉しかったりする。

古い大阪駅前の写真を見て、主人公が感心する。

「石造りの四角い大阪駅。その前を市電が行き交い、今とほとんど変わらない阪急百貨店(現在は工事中)が写っている。」



その写真を見て感心する主人公に『クリエイトきんき第16号』の大阪駅の歴史をまとめた記事を是非見てほしいと思った。

このようにこの小説には、古い写真に写っている建物や土木構造物の描写が多々登場する。私が、苦手な文学作品を最後まで読みきることができたのは、「建設コンサルタントに勤める私が設計したモノが、将来誰かの心に残るモノになってくれるかもしれない」という思いを抱いたからだろうか。

とある会社が「地図に残る仕事」という名フレーズを作り出したが、このフレーズを聞いた時、「微力ながらも自分もその仕事に係わっている」「地図に残るのだから後世に恥を晒すようなモノに仕上げるわけにはいかない」といった思いを抱いた。

さらにこの小説を読んだ今、「地図に残る仕事」だけでなく、「小説、文学に繋がる仕事」といったフレーズが頭に浮かんだ。

土木にとっては風当たりの厳しい時代が続く現在、「小説、文学に繋がる仕事」というフレーズを胸に秘め、心をこめた仕事をしていかなければならないとの思いを強くした。

<編集委員>  
東洋技研コンサルタント株式会社  
宮下 典嗣

# 「フラガール」

監督：李 相日

出演：松雪 泰子 / 豊川 悦司 / 蒼井 優  
山崎 静代 / 岸部 一徳 / 富司 純子



【あらすじ】

近代日本の発展を支えてきた石炭。石炭は古くから燃料として使用されてきており、特に産業革命以後20世紀当初まで最重要の燃料として、「黒ダイヤ」とも呼ばれ、重宝されてきました。しかし、第一次大戦前後から石油の採掘技術向上に伴い大規模な油田が開発され、燃料の主役が石油へと切り替わっていき、炭鉱は徐々に閉山に追い込まれていきました。この映画は、このような時代背景により、炭鉱労働者が職を失い、炭鉱町が衰退していく危機的状況のなか、福島県いわき市の炭鉱にて実際に起きた「地域再生」の物語であり、皆さんもご存じのレジャー施設「スパリゾート ハワイアンズ」のもととなった「常磐ハワイアンセンター」の物語です。

## 「負」の資源の転換

この映画の舞台となる福島県いわき市には温泉があり、この温泉は石炭採掘の妨げとなり、炭鉱労働条件の悪化や生産力低下をもたらす「負」の資源でした。石炭を1トン掘るために40トンもの温泉を汲み出す必要があったそうです。しかし、その「負」の資源を新規事業として立ち上げることで、マイナスをプラスに転じた発想が、この物語のはじまりです。今まで主体となっていた炭鉱事業からレジャー事業への転換。今でこそ成功していますが、映画でも描かれているように、当時は炭鉱労働者からの非難は絶えな

かったはず。ひとことで「地域再生」といっても、多大な苦難と苦労が強いられたことでしょう。

## 日本初のフラダンス、ポリネシアン民族舞踊の学校「常磐音楽舞踊学院」

この映画の主軸である「フラダンス」は、温泉の地熱と豊富な湯量を用いて、雪国の町を「ハワイ」にするためのエンターテインメントとして考えられました。そこで「常磐ハワイアンセンター」創業の1年前に設立されたのが、「常磐音楽舞踊学院」。一期生は全員炭鉱関係者の子女で、ほとんどが踊りの経験すらない素人でした。しかしながら、彼女らは周囲から冷ややかな視線を浴びながらも、必死に舞踊の習得に取り組み、施設開業を1ヶ月後に控え、東京大手町サンケイホールで行われた「旗揚げ公演」では昼夜それぞれ2000名を超える集客があり、大成功のうちに幕を閉じました。現在でも、この学院は「スパリゾート ハワイアンズ」のダンサーの育成を行っています。

## 地下資源と土木

「土木」の文字からして、「土」に関係するもののほとんどが、我々の仕事に関係しています。地下資源に関しても、「土木」と密接な関係があります。温泉もまた、地下資源の一つと考えられ、「土木」と

関係づけられます。現在では、温泉は入浴という概念に留まらず、水熱資源としても注目されています。その際に、地下資源を有効に活用・採掘するため、地下の地層や地下水等を適切に調査・評価することが非常に重要になります。黒部ダム建設でも、破砕帯突破のために、地質工学や土木工学の持てる知識と経験を集結し、徹底的な検討と研究がなされたのは有名な事実です。

色々な事業の根底には「土木」が関連していることを再認識させられました。

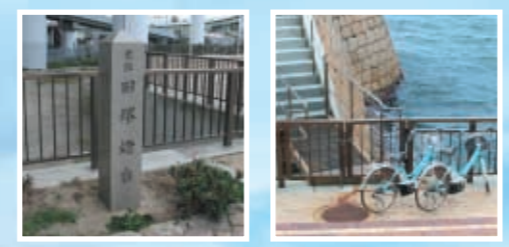
本作品にまつわる時代背景などを調べていくと、「まちづくり」の苦難と苦労が十二分に感じられました。それと同時に、嫁の母親が趣味でフラを習っているの、今度機会があれば観に行こうかと思われられる作品でした。

<編集委員>  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
松沢 政和

## フラダンスとは?

「フラ」とはハワイ語で「踊」の意味、ハワイで生まれた伝統的な民族舞踊です。まだ文字を持たなかった古代のハワイで、人々が神に捧げる信仰の表現として、また出来事を未来に残すための手段として伝わって来たと言われています。つまり、文化や歴史を継承するためのコミュニケーションツールだったのです。

# 旧堺燈台



「先人の偉大な発想・技術・努力」や綿々と続けられてきた維持、管理に敬意を表して、その意義やすばらしさを多くの人々に伝えることを目的として、土木学会が選奨するものである。

名称：旧堺燈台 評価ランク：A

コメント：明治10年(1877)に建築された民間設置最初期の洋式燈台、高さ12m。石基壇は備前の石工、継国真吉が携わり、設計は英国人技師ピグストーン。老朽化に伴い昭和43年廃止、平成13年度から18年度まで保存修理工事が行われ往時の姿が甦った。

評価ランクとは技術・意匠・系譜の評価をAからCの3段階で総合評価するもの

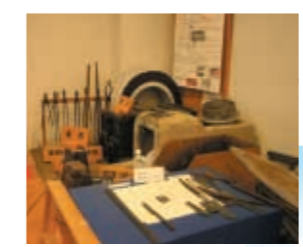
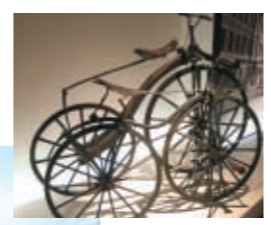
行き方：南海本線堺駅から西へ約1km。大浜公園の先。

「もののはじまりや なんでも堺 三味も小唄もみな堺」

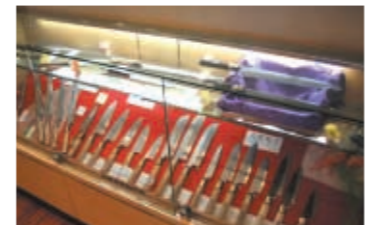
これは、堺の地元で親しまれている『堺音頭』の1節です。古代より日本の海の玄関として栄えてきた堺には、海を渡って大陸よりいろいろなものが入ってきました。また、大和・飛鳥につながる竹内街道や長尾街道など多くの街道が伸び、交通の要衝としても発展してきました。そのため、歌にも歌われているように、珍品、情報、技術に名産品など、ありとあらゆる新しいものが集まってきました。「タバコ包丁」、「線香」、「瓶詰めの酒」、「三味線」、「堺更紗」、「菱垣廻船」、「傘」...等。現代の堺といえば、「堺打刃物」、「自転車」な

どではないでしょうか。業務用包丁のシェアは約9割、国産自転車は約4割を誇り、国際サイクルロードレースの「ツアー オブ ジャパン」の第一ステージが開催されるなど、ものづくりの伝統が現在に息づいています。

堺のものづくり技術のルーツは、5世紀頃、仁徳天皇領などの巨大古墳群を造るための道具として大量の鋤や鍬が必要となったため、大和朝廷により全国から集められた鍛冶屋衆が始まりだと言われています。また、戦国時代、ポルトガルから種子島に鉄砲が伝えられた直後、堺の貿易商で鋳物工だった橋屋又三郎によりその技術が堺に伝えられ、鉄砲鍛冶が栄えました。そして、その技術が時代時代に発展し、現代の自転車技術へと繋がっていったようです。「自転車博物館」や「堺刃物伝統産業会館」などでこれらの歴史を見ることができます。



自転車博物館サイクルセンター



堺刃物伝統産業会館



鉄砲鍛冶屋敷



薫香家



チンチン電車



山口家住宅



千利休屋敷跡

そんな文化発祥の町、堺を象徴する土木遺産がありました。「旧堺燈台」です。

曇天模様の寒空の下、自転車の町堺にちなんでレンタサイクルで「旧堺燈台」を訪ねることにしました。旧市街地あたりは、チン電が走り、鉄砲鍛冶屋敷や薫香家(線香屋)など文化財指定を受けた古い家々が立ち並ぶ集落が残っていたり、あちこちに古きよき時代の香りがありました。燈台は、そんな旧市街地を抜けた南海本線堺駅の西約1キロメートル、堺旧港の突端だった場所にありました。今は、辺りは埋め立てられ工業地帯になっており、燈台の立っているところは、公園整備がされています。背景を見上げると巨大な阪神高速湾岸線が走り、燈台が建設された当時とは、まるで違う世界が広がっています。海風の突風にあおられながら燈台越しに海を眺めると、現役だった頃の燈台がしのばれます。建設当時の明治10年(1877)といえば、明治維新からまだ10年。欧米諸国の新しい技術を取り入れるため、皆が躍起になって、新しい社会をめざして活動していた頃ではないでしょうか。

建設費(2125円)、点灯機械購入費(360円)についても堺市民(当時堺県民)の寄付と堺県からの補助でまかなわれたということですから、県民の燈台への思いもひとしおだったので。当初の光源は石油ランプを

使い、約18キロメートル先まで燈台の光が届いたとされています。なんととも眩い輝きを放っていたのではないかと思います。

それから1世紀あまりの間、大阪湾を照らし続けてきましたが、昭和30年代から始まった臨海工業地帯の造成により海岸が埋め立てられ、旧堺燈台は大阪湾航行の船から次第に見えなくなっていました。そして昭和43年に廃灯となり、その役割を終えました。その後、国の史跡指定を受け、文化財として保存されています。

しかし、旧堺燈台は燈台としての役目を終えましたが、「マンホール」「電話ボックス」などのイメージデザインとなり、堺の町のシンボルとして、今なお生き続けています。

<編集委員>  
中央復建コンサルタンツ株式会社 林 直美



第42回(平成21年度)研究発表会報告



優秀発表者と本下技術部会長(審査委員長)

平成21年9月10日に大阪科学技術センターにおいて、520名の参加者を迎え盛況に開催されました。発表は47編の論文・若手技術者による15編のプレゼン報告、また四つの技術研究委員会から研究成果報告でした。また、近畿地方整備局 技術調整管理官 山本剛氏と、京都大学教授 宮川豊章氏による、特別講演が行われました。今回の発表から最優秀賞1名、優秀賞9名、奨励賞4名が選考されました。



最優秀賞受賞者 喜びの声  
日本工営株式会社  
浜田秀敬氏

私の発表は「急な増水による水難事故を防止するための1つの手段として取り組んだ設計事例」を紹介したものでした。重要なテーマと皆さんに共感いただき、受賞出来たことを嬉しく思います。この受賞を期に、多くの方から祝福の言葉やメールを頂きましたが、特に新入社員のころに指導頂いた先輩からのメッセージに感激しました。

副支店長と課長に発表を勧められたのが参加のきっかけでしたが、この研究発表会は、技術共有の貴重な場であるとともに、プレゼン技術を磨いたり、企業間交流も広がる有意義なものでした。これからも技術力向上に努めて、また参加したいと思っています。

第43回研究発表会のご案内

平成22年9月9日(木)9:00~17:30 大阪科学技術センター  
論文・プレゼン発表募集締切り：平成22年4月12日(月)  
数多くの論文・プレゼン発表をお待ちしております。

受賞者並びに発表テーマ(敬称略).....

**最優秀賞【河川系】**  
浜田秀敬：(株)日本工営(株)  
『親水施設に対する河川警報システムの設計』

**【計画・交通系】**  
**優秀賞**  
砂川尊範：(株)建設技術研究所  
『外出困難層の活動・参加機能向上に資するバス交通システムの導入と効果分析』  
佐々木泰輝：(株)修成建設コンサルタント  
『生活道路における交通事故発生状況と効果的な交通安全対策』

**奨励賞**  
依藤 亮：(株)吹上技研コンサルタント  
『自転車道の連続化に関する一考察』

**【土質系】**  
**優秀賞**  
西岡孝尚：協和設計(株)  
『地盤液状化による変形解析を併用した軟弱地盤改良工の検討』

**【河川系】**  
**奨励賞**  
河平幹雄：(株)ウエスコ  
『既設魚道を有効利用した魚道改築方法の一事例』

**【構造・施工系】**  
**優秀賞**  
木谷紋太：協和設計(株)  
『景観性に配慮したリブ付き床版を有するプレストレストコンクリート箱桁橋の計画』  
山本 悟：全日本コンサルタント(株)  
『鉄道函体に支持された跨線橋の撤去計画と函体の安全照査について』

**奨励賞**  
後藤琉一：(株)かんこう  
『京阪中之島線の線路切替に関わる施工方法および構造検討について』  
木村雅之：(株)キクチコンサルタント  
『平木橋(アーチ式石橋)移築保存計画』

**【環境系】**  
**優秀賞**  
渡邊 肇：八千代エンジニアリング(株)  
『淀川における外来水草対策について』

**<プレゼンテーション発表>**  
**優秀賞**  
大西剛史：(株)修成建設コンサルタント  
『フィルター層を有する人工海浜断面の可逆性に着目した安全性に関する研究』  
高橋宏和：日本工営(株)  
『鋼逆ランガー桁橋の補修・補強設計について』  
高木祐太：(株)オリエンタルコンサルタント  
『下北半島九艘泊地区に生息するニホンザル Macaca fuscata fuscata の生態 - 行動域と行動について - 』

(社)建設コンサルタンツ協会近畿支部 会員名簿

福井県	応用地質(株)関西支社 ☎06-6885-6357	(株)大建技術コンサルタンツ ☎06-6396-3011	(株)八州 関西支社 ☎06-6305-3245
京福コンサルタント(株) ☎0770-56-2345	(株)オオバ 大阪支店 ☎06-6228-1350	大成エンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6990-4101	(株)ピーエムコンサルタント ☎06-6535-5071
(株)構造設計研究所 ☎0778-52-5125	(株)オリエンタルコンサルタンツ 関西支店 ☎06-6350-4371	大日コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6838-1355	(株)復建エンジニアリング 大阪支社 ☎06-6838-3271
(株)サンワコン ☎0776-36-2790	開発虎ノ門コンサルタント(株)関西支店 ☎06-6352-2813	大日本コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6541-5601	復建調査設計(株)大阪支社 ☎06-6392-7200
ジビル調査設計(株) ☎0776-23-7155	(株)片平エンジニアリング 大阪支店 ☎06-4807-1857	(株)ダイヤコンサルタント 関西支社 ☎06-6339-9141	(株)間瀬コンサルタント 大阪支店 ☎06-6385-0891
(株)帝国コンサルタント ☎0778-24-0001	川崎地質(株)西日本支社 ☎06-6768-1166	玉野総合コンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6362-3520	三井共同建設コンサルタント(株) 関西支社 ☎06-6599-6011
東京コンサルタンツ(株)福井支店 ☎0776-33-5987	(株)環境総合テクノス ☎06-6263-7306	中央開発(株)関西支社 ☎06-6386-3691	明治コンサルタント(株)大阪支店 ☎0727-51-1659
滋賀県	(株)かんこう ☎06-6935-6920	中央コンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6243-2541	八千代エンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6945-9200
(株)石居設計 ☎0749-26-5688	基礎地盤コンサルタンツ(株)関西支社 ☎06-6536-1591	中央復建コンサルタンツ(株) ☎06-6160-1121	(株)横浜コンサルティングセンター 大阪支店 ☎06-6885-0964
キタイ設計(株) ☎0748-46-2336	(株)橋梁コンサルタント 関西支社 ☎06-6245-7277	(株)長大 大阪支社 ☎06-6541-5793	兵庫県
近畿設計測量(株) ☎077-522-1884	協和設計(株) ☎0726-27-9351	(株)千代田コンサルタント 大阪支店 ☎06-6441-0665	アサヒコンサルタント(株)兵庫支社 ☎0792-26-2014
(株)新洲 ☎077-552-2094	近畿技術コンサルタンツ(株) ☎06-6946-5771	(株)トーチコンサルタント 西日本支社 ☎06-6316-1491	(株)エイテック 関西支社 ☎06-4869-3361
正和設計(株) ☎077-522-3124	(株)近代設計 大阪支社 ☎06-6228-3222	(株)東京建設コンサルタント 関西支店 ☎06-6209-0700	(株)カイヤマグチ ☎0792-67-1212
京都府	(株)ケーシック ☎072-846-4641	(株)東光コンサルタンツ 大阪支店 ☎06-6541-7782	国際航業(株)西日本支社 ☎06-6487-1111
(株)エース ☎075-351-6878	ケイエムエンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6222-2440	東洋技研コンサルタント(株) ☎06-6886-1081	国土防災技術(株)関西支社 ☎078-221-2344
(株)キクチコンサルタント ☎075-462-5544	(株)建設技術研究所 大阪本社 ☎06-6206-5555	(株)都市建設コンサルタント ☎06-6555-1661	(株)ジャパックス ☎078-231-4031
(株)キンキ地質センター ☎075-611-5281	晃和調査設計(株) ☎06-6374-0053	(株)中川設計事務所 ☎06-6302-7301	(株)ニコス ☎0796-42-2905
サンスイコンサルタント(株) ☎075-343-3181	(株)国土開発センター 大阪支店 ☎06-6770-7311	中日本建設コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-4794-7001	(株)日本港湾コンサルタント 関西支社 ☎078-251-6234
内外エンジニアリング(株) ☎075-933-5111	サンコーコンサルタント(株)大阪支店 ☎06-4702-5230	(株)浪速技研コンサルタント ☎0726-23-3695	阪神測建(株) ☎078-360-8481
(株)吹上技研コンサルタント ☎075-332-6111	(株)CTIウイング ☎06-6226-1400	(株)日建技術コンサルタント ☎06-6766-3900	奈良県
若鈴コンサルタンツ(株)関西支店 ☎075-211-5408	ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) ☎06-6303-6971	(株)日建設計シビル 大阪事務所 ☎06-6229-6399	大洋エンジニアリング(株) ☎0742-33-6660
大阪府	(株)修成建設コンサルタント ☎06-6452-1081	(株)日水コン 大阪支所 ☎06-6339-7300	(株)阪神コンサルタンツ ☎0742-36-0211
(株)アーバン・エース ☎06-6359-2752	新構造技術(株)大阪支店 ☎06-6534-5801	日本工営(株)大阪支店 ☎06-7177-9500	和歌山県
(株)アイ・エヌ・エー 関西支店 ☎06-6885-6665	新日本技研(株)大阪支店 ☎06-4706-7001	(株)日本構造橋梁研究所 大阪支社 ☎06-6203-2552	(株)中山総合コンサルタント ☎073-455-6335
朝日航洋(株)西日本空情支社 ☎06-6338-3321	(株)スリーエスコンサルタンツ ☎06-6227-5885	日本交通技術(株)大阪支店 ☎06-6371-3843	和歌山航測(株) ☎073-462-1231
アジア航測(株)大阪支店 ☎06-4801-2230	セントラルコンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6882-2130	日本シビックコンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6313-5223	和建技術(株) ☎073-447-3913
(株)アスコ ☎06-6444-1121	全日本コンサルタント(株) ☎06-6646-0030	日本振興(株) ☎0724-84-5200	ワコウコンサルタント(株) ☎073-477-1115
いであ(株)大阪支社 ☎06-4703-2800	(株)総合技術コンサルタント 大阪支社 ☎06-6325-2921	(株)ニュージェック ☎06-6374-4901	
(株)ウエスコ 大阪支社 ☎06-6943-1486	第一建設設計(株) ☎06-6353-3051	パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社 ☎06-4964-2222	
(株)エイト日本技術開発 関西支社 ☎06-6397-3888	第一復建(株)大阪支店 ☎06-6453-4321	(株)バスコ 関西事業部 ☎06-6214-6700	

厚生委員会からのお知らせ

厚生委員会は、支部会員相互の交流を図るため、近畿支部全地域を対象とした行事及び講習会・講演会等を実施することを目標としています。また、文化的行事あるいは各種スポーツ大会を企画・運営しています。今年も盛りだくさんの行事が企画されています。皆様の参加・観戦をお待ちしています。

第48回野球大会結果報告

日時：平成21年9月5日(土)・10月31日(土)  
場所：万博スポーツ広場(参加会社 28社)  
優勝 (株)ウエスコ  
準優勝 国際航業(株)  
第3位 (株)アスコ



第34回サッカー大会(結果は次号で報告します。)

第1回戦：平成21年12月19日(土)  
第2回戦・3回戦：平成22年1月16日(土)  
準決勝・決勝・3位決定戦：平成22年1月23日(土)  
場所：舞洲サッカー場



編集後記

今回は「まちを元気にする」と題し、様々な取り組みについてご紹介しました。

大幅削減、緩やかに下降、事業中止等、あまり明るい話題ではない、気持ちが悪く感じられるような話題の多い昨今ですが、そんな中でも何とか元気になるという“まち”“街”“町”がありました。どの取り組みも明るい未来を目指した夢のあるものでした。

今、建設コンサルタントに限らず、日本の会社は中々元気の出ない状況が続いていると思います。そんな中々元気が出ない状況ではありますが、明るい未来を目指して元気に皆が動き出せば、きっと状況は変わってくると思います。

暗から明へのキッカケに、今回の「クリエイティブ」がなってくれば、編集に携わったものとして望外の喜びです。

編集委員 宮下典嗣